

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 水・3	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生体の機能 (循環と血液) Basic Human Physiology (Circulation and Blood)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類	人間科学科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 瀬戸信二 / Eメールアドレス: s-seto@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 医学部附属病院臨床棟7階 / オフィスアワー: s-seto@nagasaki-u.ac.jp			
担当教員(オムニバス科目等)	宮崎泰司、塚崎邦弘、泉川公一、小出優史		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 生体の機能、なかでも生体維持の中心でもある循環系に関わる血液、肺(呼吸器)、心臓について生体維持のためどのような働きをしているのか具体的な理解を深める。さらには高血圧症など関連する疾患についてもなるべくわかりやすく解説する。 授業方法: 血液、呼吸器、循環器疾患の実際の診療に携わっている医学部教官が、それぞれの専門分野について分担して講義します。専門医がせっかく講義するわけですので、病気に関することでも結構ですので、活発な質問を期待します。 授業到達目標: 生体内での循環の仕組み、どのように生体を維持しているかを理解できるとともに、生体の巧妙なメカニズム、不思議さに気づいてもらえればと考えています。また、高血圧症について周囲の人に解説できるようにしたいと思います。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要): 1. 血液に関し、血液細胞の種類、その産生秩序と機能、また、血液細胞の一生について解説する。 2. 肺(呼吸器)は血液におけるガス交換を主な機能とする臓器であるが、肺自体には内在する肺胞を守る機能も有している。ガス交換や換気力学などの呼吸機能のみでなく肺の感染防御機能についても講義する。 3. 心臓の重要な機能はポンプ作用にある。この心臓の解剖と機能について解説する。 4. 生活習慣病の一つとして最も頻度が高く、健康に重大な影響を及ぼす高血圧に関し、実際に役立つ知識も含めて講義する。 第1回 循環系の概要 第2回 血液 第3回 血液 第4回 血液 第5回 血液 第6回 予備日 第7回 肺(呼吸器) 第8回 肺(呼吸器) 第9回 肺(呼吸器) 第10回 予備日 第11回 血圧(高血圧) 第12回 血圧(高血圧) 第13回 心臓 第14回 心臓 第15回 定期試験			
キーワード			
教科書・教材・参考書	特に指定した教科書はないが、Mader 著「human Biology」(McGraw-Hill)は参考書として推薦できる。		
成績評価の方法・基準等	筆記試験で行いますが、授業への貢献度を考慮します。 (筆記試験 70%、授業への貢献度 30%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			